



平成26年度会員総会について

本会の平成26年度会員総会を6月24日(火)15時30分から群馬県四万温泉の四万グランドホテルにおいて開催いたします。

会員各位のご出席をお願いいたします。詳細につきましては6頁をご参照ください。

禁忌症等基準に関する意見を提出

温泉を公共の浴用または飲用に供する場合、温泉法により、施設内の見やすい場所に、温泉の成分、禁忌症及び入浴または飲用上の注意等を掲示しなければならないことになっています。

環境省では、この掲示の適正を図るため、「温泉の禁忌症及び入浴又は飲用上の注意決定基準」を定めています。現行の基準は昭和57年に定められたもので歳月が経過したため、最新の温泉利用に関する医学的知見等を踏まえた見直しの検討が行なわれてきました。

検討結果にもとづき「温泉法第18条第1項の規定に基づく禁忌症及び入浴又は飲用上の注意の掲示等について」(案)が策定され、1月24日から意見募集が行なわれていました。

本会も「禁忌症等基準に関する意見」として日本温泉協会大会会長名で2月7日に意見を提出しました。意見は次のとおりです。

(1)該当箇所：浴用の方法及び注意

意見内容：従来の表記に比べわかりやすい表記になった点は評価できる。その周知徹底のためには、温泉提供者側が一定期間の温泉研修会の受講を受け(行政等が研修会を実施)、基本的事項について利用者に適切なアドバイスができるような体制づくりが望まれる。

理由：掲示のみに頼るだけでなく、施設の管理者自身が正しく理解しその周知の実践に努めることは、入浴時の不慮の事故等

を未然に防ぐことにもつながる。

(2)該当箇所：入浴後の注意

意見内容：肌の弱い人に対し、刺激の強い泉質では、入浴後に洗い流すことの必要性を説いているが、加えて、塩素消毒を行っている温泉についても同様の配慮が必要であることの記載が必要ではないか。

理由：個人差はあるにしても、塩素消毒が原因で肌荒れなどが起る場合もあり、事前に注意を促すことは必要と思われる。

(3)該当箇所：療養泉の適応症

意見内容：ここで「温泉」とは別に「療養泉」という用語が用いられるが、「温泉」と「療養泉」との違いについて医学的根拠の説明が必要ではないか。

理由：療養泉という用語はふだんあまり馴染みがないことから、正しく理解してもらうためにも、わかりやすい補足説明が必要と思います。

禁忌症等の掲示等の改訂について

4月3日に環境省の中央環境審議会自然環境部会温泉小委員会(第14回)が開催され、「温泉法第18条第1項の規定に基づく禁忌症及び入浴又は飲用上の注意の掲示等の基準」が改訂されることになりました。

主な変更点は、①禁忌症の掲示基準について(温泉の一般的な禁忌症から「妊娠中(とくに初期と末期)」の削除、含有成分別禁忌症の追加)、②入浴又は飲用上の注意の掲示基準について(入浴前、入浴方法、入浴中、入浴後に区分し分かりやすく整理、など)、③適応症の掲示基準について(胃腸機能の低下、ストレスによる諸症状、などを新たに追加など)、です。

今後、環境省自然環境局長通知として、各都道府県知事などに宛て地方自治法に基づく技術的助言として通知される見通しです。

この内容は本会のホームページ「温泉名人」

でご覧になれます。また本誌次号でも詳しく紹介の予定です。

女性部委員会設立準備委員会開催

平成25年度第2回理事会の承認を受け設立が決まった女性部委員会の設立準備委員会を、平成26年2月6日(木)12時から東京の全国旅館会館会議室で開催しました。

女性部委員会は、日本温泉協会が目標とする、温泉地や温泉旅館の充実と発展にはますます女性の目線と活躍が必要、という認識のもと設立になったもので、同理事会で代表に決まった小口潔子氏(磐梯熱海)の呼びかけで集まった準備委員のほか、協会執行部から大山正雄会長、佐藤好億常務副会長、岡村興太郎副会長も出席しました。

自己紹介のあと、13名の準備委員全員が女性部委員会の委員となることを了承。互選により、委員長に小口潔子氏、副委員長に佐藤潤氏(秋保)、笹本かほり氏(湯村)、稲穂照子氏(湯ヶ野)を選定しました。今後、理事会の同意を経て、各委員候補者に対し会長が委嘱することとし、女性部委員会に期待すること、果たす役割、今後のスケジュールなどについて話し合いました。

なお、委員長、副委員長以外の委員は、次の方々です(五十音順)。

安部里美氏(大平)、石村旭代氏(箱根)、佐藤好恵氏(二岐)、島田美智子氏(松之山)、田村早代氏(四万)、中澤佑香氏(桃の木)、廣川登美子氏(那須)、八木きよ美氏(あわら)、山口隆子氏(天童)。

第56回「旅と温泉展」開催

本会の主催による第56回「旅と温泉展」を3月18日(火)から21日(金)まで、神奈川県横浜市の新都市プラザ(横浜駅東口)で開催しました。

本展は、春の行楽シーズンにさきかけ、全国の温泉地の最新情報と温泉に関する基礎的な知識の紹介を目的に毎年この時期に開催しています。

全国の主要温泉地と本会加盟の旅館ホテル等を写真パネルで紹介するとともに、パンフレットを数多く取り揃え配布しました。温泉の体感コーナーでは、温泉地から直送された源泉の湯を保温容器で展示し、来場者に直に触れてもらうことで、温泉の温もり、色合い、香りを体感してもらいました。

今回は特別企画として「温泉ご当地キャラクター大集合!」と銘打ち、全国の温泉地の53体のキャラクターを紹介し、会場とウェブなどで人気投票を行ないました。会期中は日替りで、群馬県猿ヶ京温泉の「湯湯(ゆうゆう)」、長野県野沢温泉の「ナスキー」、静岡県熱海温泉の「あつお」、岡山県湯原温泉の「湯原温丸(ゆばらあったまる)」がイベントステージに登場し、温泉地を紹介。来場者との撮影タイムには行列もできるほどで会場を沸かせました。会期中の来場者数は58,500人。

第42回「ホテルズ」出展

(一社)日本能率協会ほか観光関係4団体の主催による第42回「国際ホテル・レストラン・ショー」が2月18日(火)から21日(金)まで東京の東京ビッグサイトで開催され、本会も出展いたしました。

小さなエネルギーシステムの普及を提唱する(公社)国際観光施設協会に賛同し、今回も同協会と共同出展。会員企業の西部温泉工業㈱の協力を得て、温泉の部門を担当しました。

「温泉ご当地キャラクター大集合!」 人気投票結果発表

前号の『温泉』82巻2号(通巻859号)にて、「温泉ご当地キャラクター大集合!」の特集を組み、温泉をPRするご当地キャラクターの人気投票を実施しました。おかげさまでWEB、温泉展会場、郵送、FAXなどから、6612票のご投票をいただきました。そして、全国から集めた53体のキャラクターの中から栄えある第一位になったのは、熱海温泉の「あつお」(投票数1534票)、第二位は草津温泉の「ゆもみちゃん」(投票数1321票)、第三位は蔵王温泉の「樹氷のじゅっきーくん」(投票数449票)となりました。投票結果詳細につきましては、次号に詳しくお伝えいたします。ご投票いただいた皆様、ならびにご協力いただいた関連市町村・団体の皆様に厚く御礼申し上げます。

訂正

前号、前々号掲載の「地熱発電が及ぼす人体への影響」の記事内で、ヒ素を表す化学記号の表記に誤りがありました。正しくはAsです。訂正してお詫びいたします。